

「いいですか、これがねこです。この顔を見たら、すぐににげなさい。つかまったらさい後、あつというまに食べられてしましますよ。」

子ねずみたちは、先生の話を いっしょうけんめい 聞いています。

でも、あれえ。先生の話を ちつとも 聞かずに、おしゃべりして いる 子ねずみが 三びき いますよ。

しばらくして、三びきが 気が つくと みんないなく なって いました。

「あれれ、だれも いないよ。」

「それじゃあ、ぼくたちは ももを とりに行こうか。」

「うん。行こう 行こう。」

子ねずみたちが 歩きだした その ときです。

ニャーゴ

三びきの 前に、ひげを ぴんと させた 大きな ねこが、手を ふり上げて 立って いました。

三びきは、かたまつて ひそひそ声で 話はじめました。

「びっくりしたね。」

「この おじさん だれだ。」

「きゆうに 出て きて、ニャーゴ だって。」

「おじさん、だあれ。」

ねこは どきつと しました。そこで、子ねずみは もう 一度、

「おじさん、だあれ。」

と、元氣よく 聞きました。

「だれって、だれって……たまだ。」

ねこは、言つて しまつてから、少し 顔を 赤く しました。

「そうか、たまか。ふうん。」

「たまおじさん、ここで 何してるの。」

「何って、べつに。」

ねこは、口を とがらせて 答えました。

「じゃあ、ぼくたちと いっしょに おいしい ももを とりに行かない。」

それを 聞いて、ねこは 思いました。

(おいしい ももか。うん、うん。その 後で この 三びきを。

ひひひひ。今日は、なんて ついて いるんだ。)

ねこは、子ねずみたちを せなかに のせると、ももの 木の

方へ 走つて いきました。

三びきの 子ねずみと ねこは、ももを 食べはじめました。

(うまい。でも、たくさん 食べたらいけないぞ。おなか いっぱいになったら、こいつらが 食べられなくなるからな。

【題名読み】題名からどんな物語かイメージし、交流できるようにする。

第一場面

○食べられてしまう

↓ねこに対してのねずみの考え

○いっしょうけんめい 聞いて

↓他の子ねずみたちの真剣な様子

○ちつとも 聞かずに、おしゃべり してい

る 子ねずみが 三びき

↓他の子ねずみの態度とは対照的な様子がわかる。

ねこについての話を聞いていないこ

とから、この後の話の展開のキーとなつて

いく。

子ねずみは「こんにちは」の
あいさつだと思っている。

第二場面

○ニャーゴ

↓一回目のねこの鳴き声。

○ひげを ぴんと させた 大きな ねこが

手を ふり上げて

↓ねこの様子に着目させる挿絵にも着目でき

るようにする。

○ひそひそ声

↓ねこのことを知らない。だから、「ニャーゴ」

という鳴き方も知らない。

○元氣よく

↓ねこのことを知らないがゆえに、「元氣よ

く」と聞くことができる。

【発問】なぜ、ねこは、少し顔を赤くしたのでしょうか。

○少し 顔を 赤くして

↓名乗るとは思っていなかったから。

↓ねこをこわがらないとは思っていなかった

ので、拍子が抜けたかたから。

○口を とがらせて

↓子ねずみに、何をしているかを問われたの

で、ねこは戸惑っている。

第三場面

○ひひひひ

↓二回繰り返されるねこの「ひひひひ。」に着

目させる。ねこの食べたい気持ちの高まり。

【発問】「ひひひひ」の後にねこはどんなことを心の中で言っているのでしょうか。

ひひひ。

ねこは、ももを 食べながら 思いました。
ももを 食べおわると、三びきの 子ねずみと ねこは、のこった ももを もって、帰って いきました。

そして、あと 少しの ところまで 来たときです。ねこは、ぴたっと 止まって、

ニャーゴ

できるだけ こわい 顔で さげびました。

そして、

「おまえたちを 食って やる。」

と言おうと した その ときです。

ニャーゴ

ニャーゴ

ニャーゴ

三びきが さげびました。

「へへへ、たまおじさんと はじめて 会った とき、おじさん、ニャーゴって 言ったよね。あの とき、おじさん、こんにちは って 言ったんでしょう。そして、今の ニャーゴが さよなら なんですよ。」

「おじさん、はい、これ おみやげ。」

「みんな 一つずつだよ。ぼくは、弟に おみやげ。」

「ぼくは、妹に。」

「ぼくは、弟に。たまおじさんは、弟か 妹 いるの。」

「おれの うちには、子どもが いる。」

ねこは、小さな 声で 答えました。

「へえ、何びき。」

「四ひきだ。」

ねこが そう 言うと、

「四ひきも いるなら 一つじゃ 足りないよね。ぼくの あげる。」

「ぼくのも あげるよ。」

「ぼくのももも。」

「ううん。」

ねこは、大きな ためいきを 一つ つきました。

ねこは、ももを かかえて 歩きだしました。

子ねずみたちが、手を ふりながら さげんで います。

「おじさあん、また 行こうね。」

「やくそくだよう。」

「きつとだよう。」

ねこは、ももを だいじぞうに かかえた まま。

ニャーゴ

小さな 声で 答えました。

第四場面

○ニャーゴ

↓二回目のねこの鳴き声。

○できるだけ こわい 顔で さげぶ

↓ねこの様子に着目させる。挿絵にも着目できるようにする。

○ニャーゴ ニャーゴ ニャーゴ

↓初めてねことあったときの「ニャーゴ」が「こんにちは」そして、今回の「さよなら」挨拶は、親和の気持ちの表れ。

○みんな一つずつ

↓ねこと三びきの子ねずみの分で、ももは全部で四つあることを叙述から確認する。

○四ひき

↓ねこの子どもの数とももの数が同じ。

○ぼくのも

○ももも

↓子ねずみたちが自分の分を、たまの子どものために、たまに差し出す。無邪気な優しさに触れ、ねこに気持ち揺れ動き、変化する。

【発問】「ううん。」の後にねこはどんなことを心の中で言っているのでしょうか。

○大きな ためいき

↓ためいきがでたときの理由を、ためいきの前にある叙述や生活経験を基に、言葉の意味を考えることができるようにする。

↓ためいきの理由を考えた後、心内語を考える。
(あきらめ、まよっている、感心、後悔、力がぬける、
がっかり、思い通りいかない など)

第五場面

○小さな声

【発問】三回目の「ニャーゴ」が小さくなったのはどうしてでしょうか。

【発問】三回目の「ニャーゴ」に続く言葉(心の声)を考えましょう。

- ・ 食べようとしてわかったよ。
- ・ やさしくしてくれてありがとう。
- ・ つぎにあったら、わるものと思われるかも。

子ねずみは「さようなら」のあいさつだと思っている。

…で力がぬけたから